

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立新巽中学校

生徒数

98

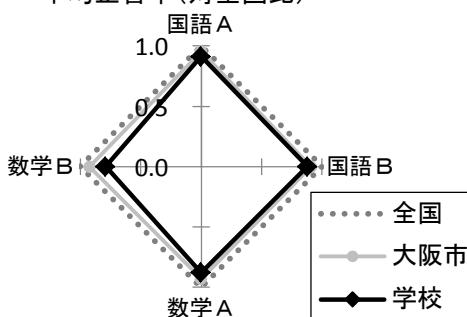
平均正答率(%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	69.2	40.8	54.8	43.7
大阪市	75.9	46.3	62.5	55.2
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

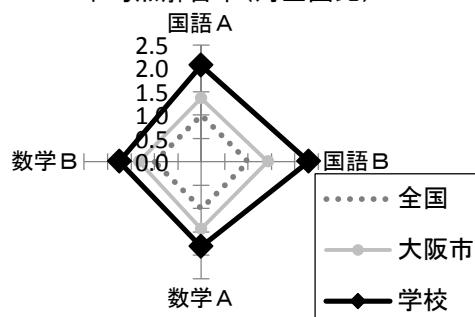
平均無解答率(%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	8.6	11.5	11.3	25.4
大阪市	4.2	5.0	6.2	14.5
全国	3.1	3.5	4.3	10.9

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



結果の概要

- 学力調査の平均正答率は「国語」「数学」の全ての領域で大阪市・全国を下回っている。
- 「国語A」「国語B」とも昨年と大きな差はない。平均無解答率も大きな変化は見られない。
- 「数学A」は大きな差はない、「数学B」は15ポイント上がっている。平均無解答率は「数学A」は変化がないが「数学B」では5ポイントさがっている。
- 「国語の勉強は好きですか」「授業の内容はよく分かりますか」は大阪市・全国と大きな差はないが、他の人に自分の考えを話したり、書いたりすることや考え方の過程を伝えることを苦手としている。
- 「数学の勉強は好きですか」「授業の内容はよく分かりますか」「学習したことを普段の生活の中で活用を考えますか」「公式や決まりを習う時、その根拠を理解しますか」の質問では大阪市と大きな差はない。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- 規範意識の向上と授業規律の確立を重要課題として取り組んできた結果、以前より落ち着いた状況で授業が行われている。
- 「授業力」と「学習力」の強化をめざして、様々な取り組みを進めている。具体的には研究協議をともなう研究授業や年間に一人1回は研究授業を実施し、指導方法や内容の向上に努めている。また、加配教員を活用して、国語・数学・英語・理科での少人数授業やT・Tなど個に応じたきめ細やかな指導方法に取り組んでいる。
- テスト前の放課後学習や長期休業中の補充授業、サマースクール等の授業以外の学習機会を設け、基礎的・基本的内容の確実な定着と自学自習できる力の育成に努めている。
- 家庭学習の進め方を具体的に示した学習ガイドブックを配付し、家庭学習の習慣化と定着をめざしている。
- 学校図書館の活用を図るため、蔵書増冊を実施している。1年生では読書時間を設定し、読書習慣の定着を進めている。

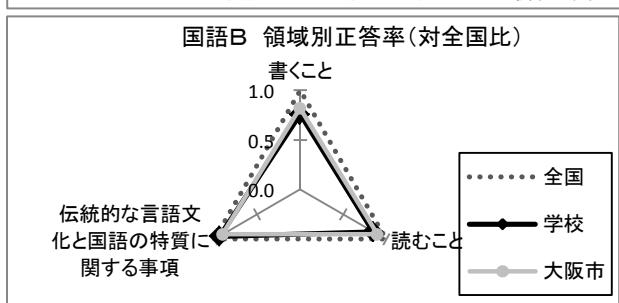
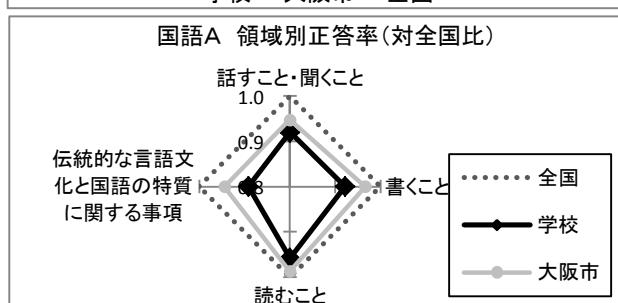
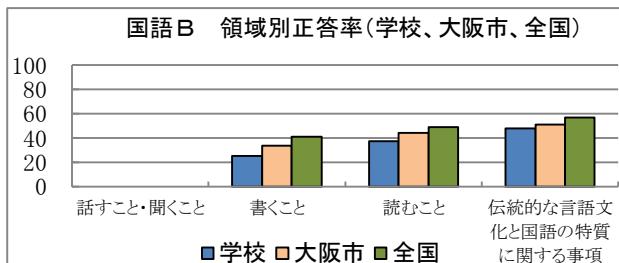
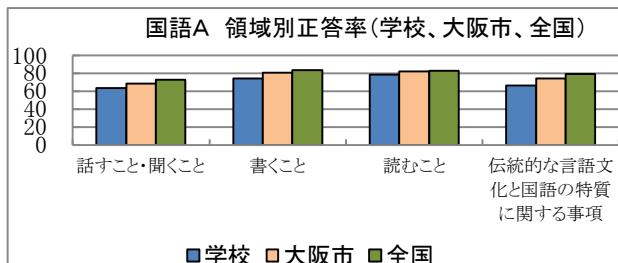
【国語】

結果の概要

- ・A, B問題ともに全ての領域で大阪市、全国を下回わっている。
- ・A問題での「読むこと」は大阪市との差はわずかである。
- ・言語事項について、全国平均と比較すると正答率の低さが顕著である。

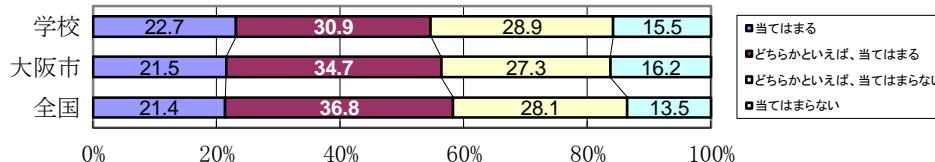
A 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	63.0	68.5
	書くこと	6	74.3	80.6
	読むこと	5	78.4	81.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	66.2	74.3

B 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—
	書くこと	3	25.5	33.6
	読むこと	8	37.4	44.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	48.2	51.3

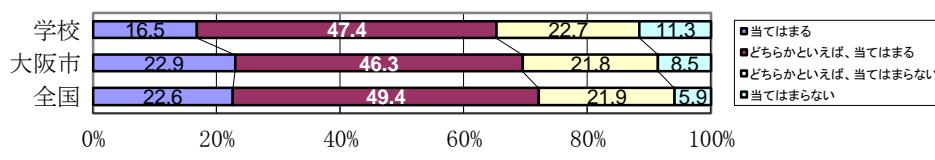


国語に関する「生徒質問紙」

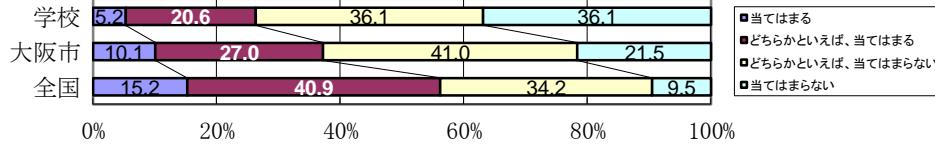
50
国語の勉強は好きですか



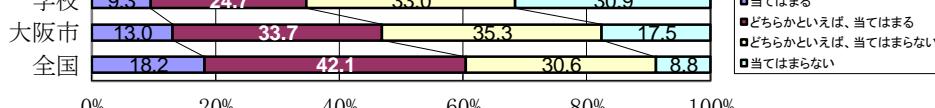
52
国語の授業の内容はよく分かれますか



55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

- ・学校の成績に影響するテストではじめに取り組んでいる。逆に日頃から学習に対する真剣に取り組む姿勢がたりず、そこを育てていかなければならぬ。
- ・自分の意見や考えの理由や根拠を述べるよう指導を続けている。

今後の取組

- ・視聴覚教材を取り入れることによって、興味・関心を持たせると同時に分かりやすい授業づくりをする
- ・読書習慣の定着が語彙力と文章理解力の向上に結びつくと考えているので、読書活動の時間確保を進めること。

【数学】

結果の概要

- ・A問題、B問題とも全ての領域で、全国平均、大阪市平均を下回っている。
- ・特にA問題の図形領域とB問題の数と式の領域で大きく下回っている。

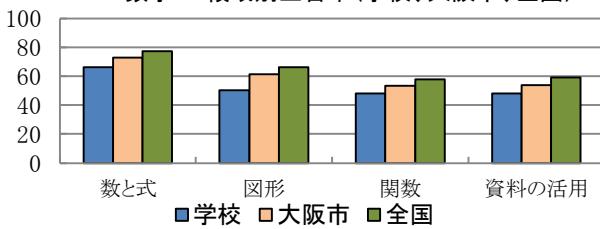
A問題

		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	12	66.1	72.8
	図形	12	50.3	61.2
	関数	8	48.2	53.2
	資料の活用	4	48.0	54.0

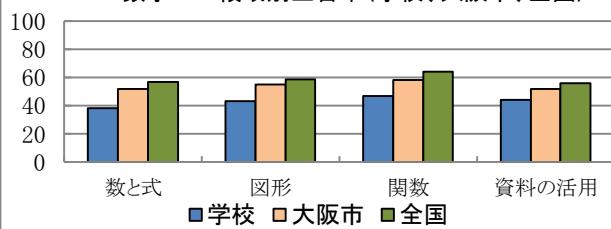
B問題

		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	3	38.1	52.1
	図形	5	43.5	55.0
	関数	5	47.1	58.5
	資料の活用	2	44.4	51.9

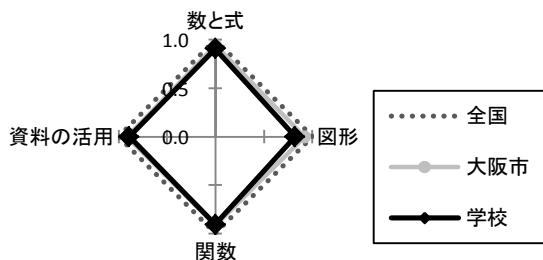
数学A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



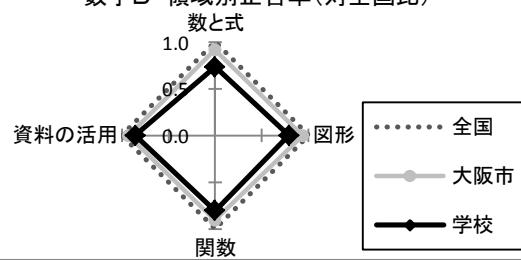
数学B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



数学A 領域別正答率(対全国比)



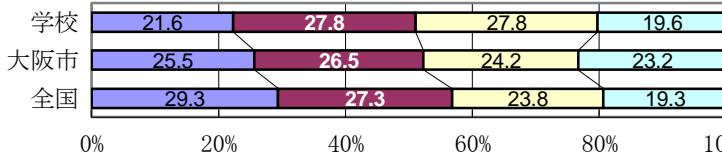
数学B 領域別正答率(対全国比)



数学に関する「生徒質問紙」

62

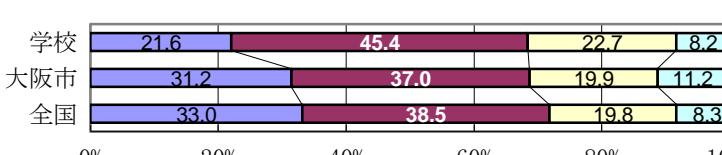
数学の勉強は好きですか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

64

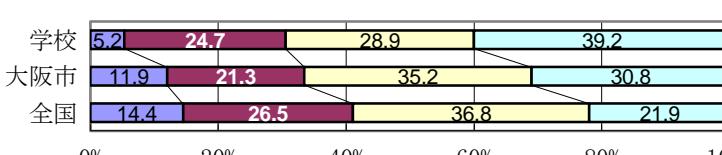
数学の授業の内容はよく分
かりますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

67

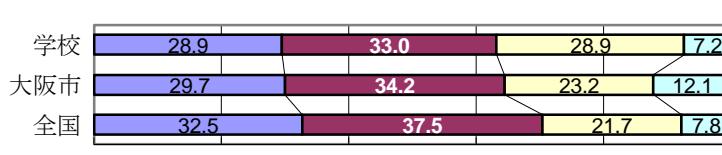
数学の授業で学習したこと
を普段の生活の中で活用
できぬいか考えますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

70

数学の授業で公式やきまり
を習うとき、その根拠を理解
するようにしていますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

成果と課題

- ・約7割の生徒が授業の内容が「どちらかといえばよく分かる」と答えているが、学習内容を精選し、基礎・基本の内容にしぼっている。
- ・発展的な問題まで深く取り上げるのが難しい現状である。

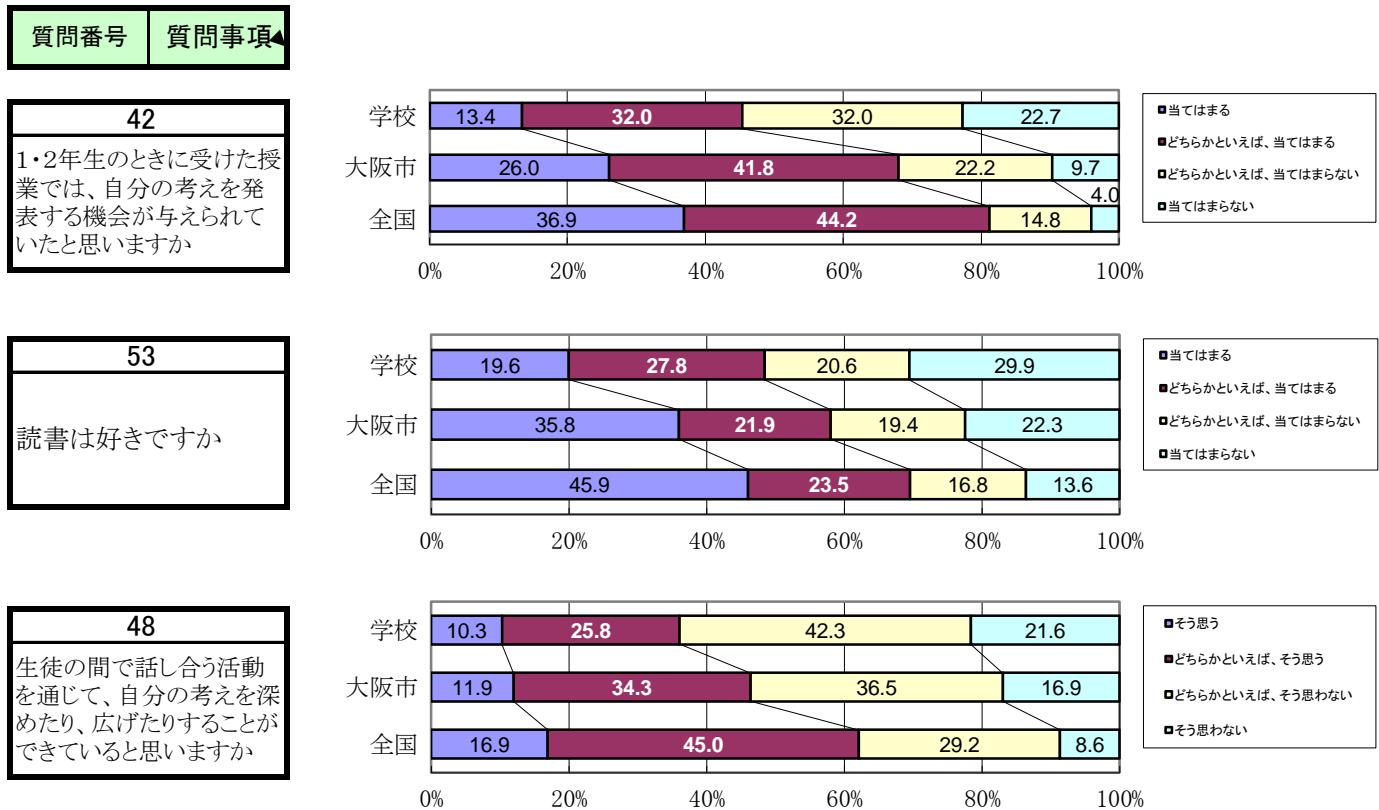
今後の取組

- ・基礎・基本をしっかりと定着させるために繰り返し学習させる。
- ・学習内容を生活に結びつけ、活用している例を多く取り上げ、問題解決に活かせるようにしていく。

学びの充実に向けて(1)

結果の概要

- 授業の中で、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりする機会が与えられていない感じている生徒が45%いる。大阪市や全国のどちらかといえば、当てはまるとほぼ同じである。
- 読書が好きだと回答した生徒は昨年より12%減少した。
- グループ討議や調べ学習などの機会が大阪市や全国より少なく、自分の意見や考えを発表することに苦手意識を持っている。



成果と課題

- 自分の課題や目的に応じて聞き取ったりまとめたりする力が弱い。自分で考えるよりも教員や解答にたよろうとする。
- 自分の考え方や意見を表現するのが苦手で「話す」「書く」といった表現力やコミュニケーション能力に課題がある。
- 図書室の開館時に多くの生徒が利用している。

今後の取組

- 調べた事柄をレポートや新聞にまとめたり、写真やグラフ、図などを取り入れたプレゼンテーションとして表現する指導を進める。
- 情報を収集・分類・比較または関連づけたりして情報の選択や整理をする能力の育成を図る。

学びの充実に向けて(2)

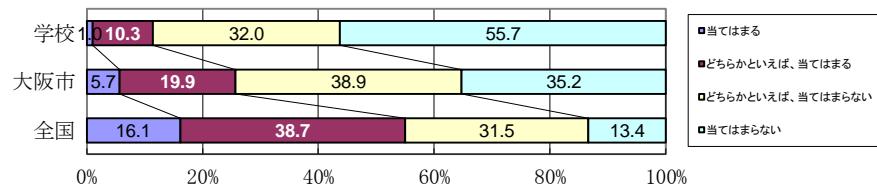
結果の概要

- 総合的な学習の時間において「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答している生徒がどちらかといえば、あてはまる生徒を含めても11%である。あてはまらないと回答した生徒が約56%である。
- 学校質問紙の「あまり行っていない」からも推測される結果である。

質問番号	質問事項
------	------

40

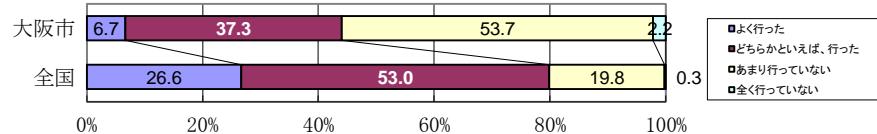
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



42【学校質問紙】

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか

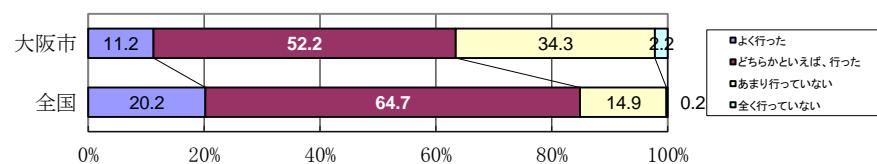
学校 「あまり行っていない」を選択



30【学校質問紙】

各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか

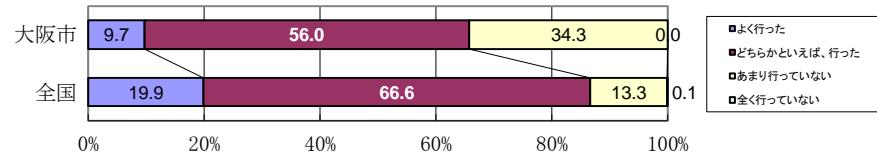
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



41【学校質問紙】

自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか

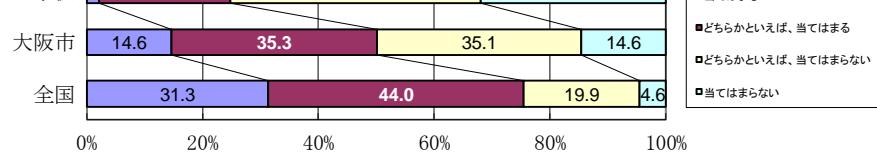
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



43

1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか

学校 2 「どちらかといえば、行った」を選択



成果と課題

- 学力を単に知識・理解の量ととらえず身近にある様々な問題について、自ら課題を見つけ、学び、考え、判断し問題を解決する力として考え、主体的に学ぶ態度を含め総合的にとらえてきた。
- 本校では、職業講話や保育体験学習、高校の出前授業、性教育をはじめとする様々な人権学習として取り組んできた。

今後の取組

- 地域に積極的に出かけ、様々な体験活動を行ったり、多くの人と出会って、実際の社会や日常生活の中で活用できる能力を身に付けさせ、生徒が探求的に学ぶ総合的な学習の時間を進める。

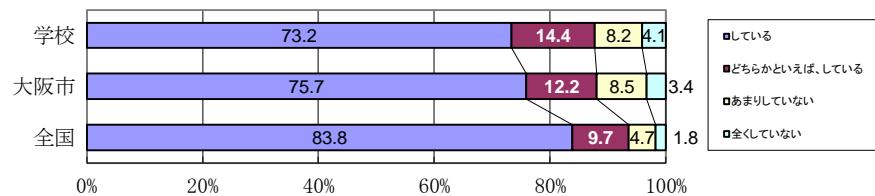
基本的生活習慣

結果の概要

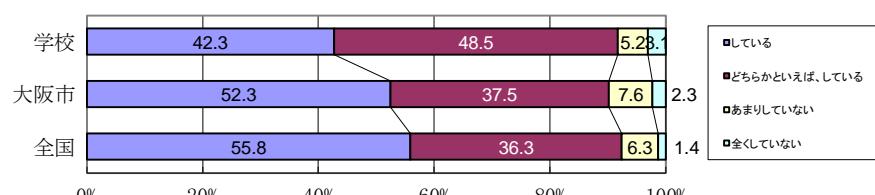
- ・ 基本的な生活習慣において、「朝食を毎日食べていますか」という問い合わせに対して、「食べている」「どちらかといえば食べている」と答えた生徒数は大阪市の平均とほぼ変わらない。昨年よりも増加している。
- ・ 「同じくらいの時刻に起きていますか」については、「起きています」「どちらかといえば、起きている」と、答えた生徒数は大阪市をわずかに上まり、全国と変わらない結果になった。
- ・ 寝るまでの時間、主に携帯電話やスマートフォンによるLineやメール、ゲームに時間を費やしていることが長く、就寝時間が遅くなるために睡眠不足を感じている生徒が多い。

質問番号	質問事項
------	------

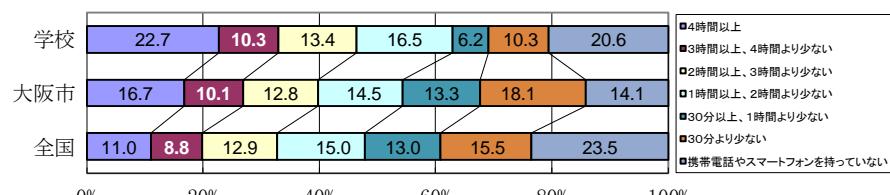
1
朝食を毎日食べていますか



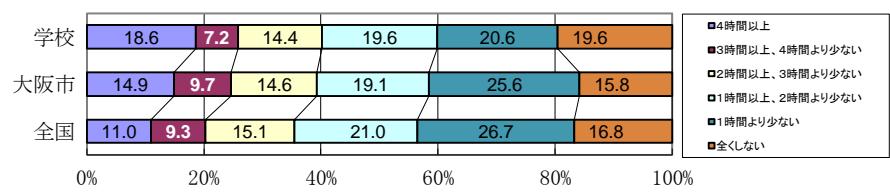
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか (ゲームは除く)



12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



成果と課題

- ・ 朝食を食べて登校する生徒は確実に増加してきている。
- ・ 起床時間は全国と変わらない結果となってきたが、すっきり目を覚ます生徒が少なく、睡眠不足を感じている生徒が非常に多い。眠くて起きられないと答える生徒も少なくない。
- ・ 原因として考えられるのは、就寝前の遅い時間まで携帯電話やスマートフォンによるLineやメールまたはゲームをしている。

今後の取組

- ・ 朝食は心と身体の目覚めを促進させ、脳の働きを活発にする大切なエネルギー源であるため、朝食を必ず食べる習慣をつけさせたい。
- ・ 基本的な生活習慣のリズムが身についていないことが推察される。基本的な生活週間の確立を図るためにも生活改善を推進するよう家庭の協力を得る。また、携帯やスマートフォンの使用についても考えさせる指導を推進する。

家庭学習

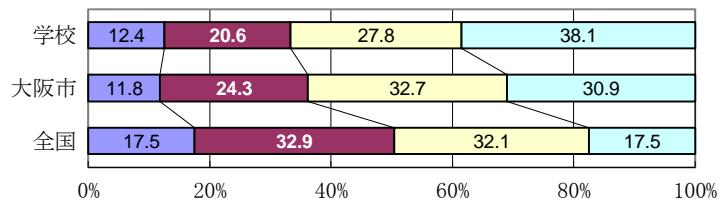
結果の概要

- 「家で、学校の復習をしていますか」、「している」と答えた割合は大阪市を0.6ポイントあるが上回ったが、「どちらかといえば、している」を加えた結果は大阪市を下回った。「全くしていない」は大阪市や全国をはるかに上回っている。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問い合わせでは、「している」は大阪市が約2倍、全国では約2.5倍となっている。
「全くしていない」は大阪市とは5ポイント、全国とは約2倍と差が大きい。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）」に関しては、「全くしない」と答えた割合が大阪市より約10ポイント、全国とは約4倍と大きく差が開いた。

質問番号	質問事項
------	------

24

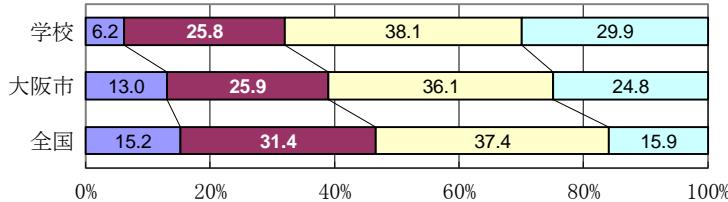
家で、学校の授業の復習をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

21

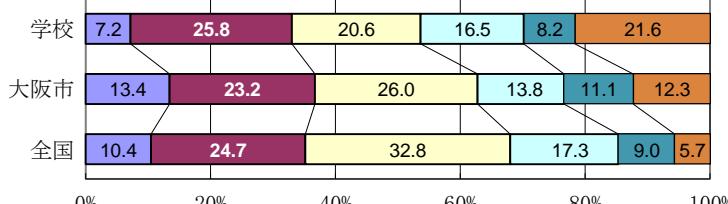
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

14

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）



- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない

成果と課題

- 家庭での学習の習慣が「2時間以上」と答えた割合が大阪市や全国を若干上回った。また、「30分以上、1時間より少ない」でも大阪市を上回り、全国との差が小さくなってきた。
- 生活時間の有効な使い方を身に付けさせるためにも学習の計画をきちんと立てさせ、家庭学習の習慣や方法、基礎的・基本的な学習内容を身に付けさせていきたい。

今後の取組

- 家庭学習についての学校としての基本的な考え方の共通理解を図る。
- 家庭学習に係わる実態調査を実施し、実態把握に努める。
- 「家庭学習の手引き」を作成・配付し、家庭学習の本校の考え方を伝える。また、生徒が「家庭学習の手引き」を有効に使いながら、自らの家庭学習を振り返ったり工夫したりできるような取組を推進する。

自尊感情・規範意識

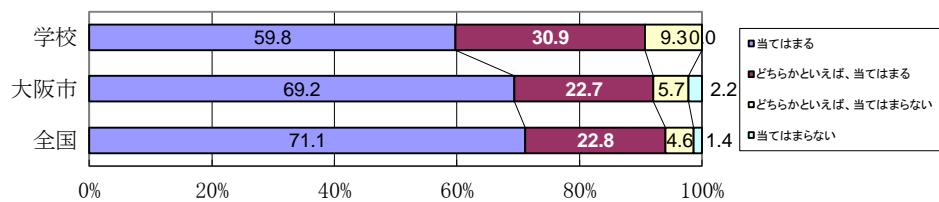
結果の概要

- 「ものごとを最後までやり遂げてうれしい」「どちらかといえば、うれしい」を合わせると9割の生徒が実感している。「どちらかといえば、当てはまらない」と実感しない生徒の割合が多い。
- 「学校の規則を守っていますか」について、「守っています」と答えた生徒の割合が昨年度の半分という結果になった。「どちらかといえば、守っていない」「守っていない」を合わせた結果は昨年と変わらなかった。
- 自分の良さを実感している生徒は年々増え、大阪市を上回った。自分に自信がない、自信を持たない生徒も多い。

質問番号	質問事項
------	------

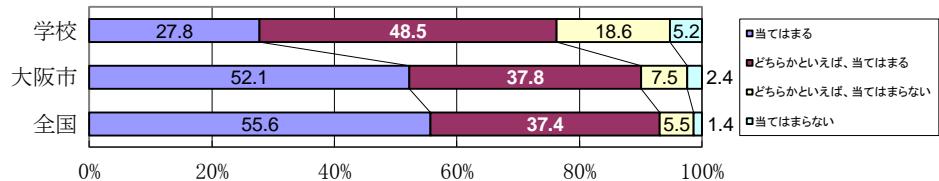
4

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



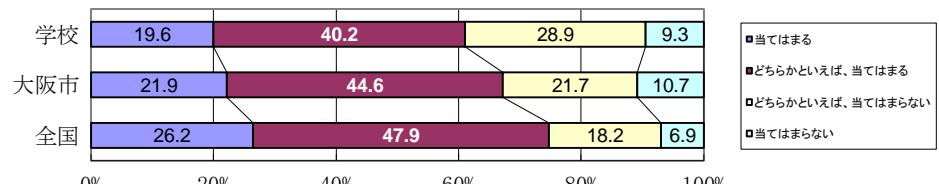
34

学校の規則を守っていますか



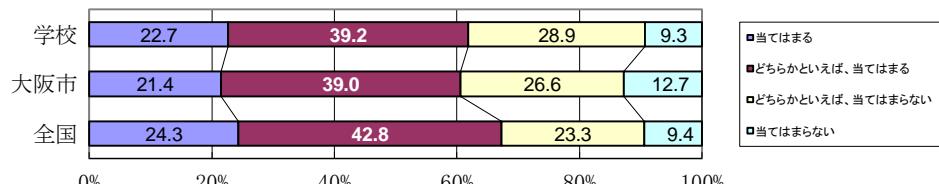
28

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6

自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

- 学校の規則は、「守っている」割合が昨年度の約半分という結果だった。「どちらかといえば守っている」割合が昨年より大きく増えている。これは校則について守るべきものだという理解ができているからだ
- 自分自身の良さを自覚し、自分に自信を持っている生徒が増えつつある。達成感や成就感を実感できる体験学習を増やしていく必要がある。

今後の取組

- 集団の中でルールを守る大切さを学ばせる。(規範意識の向上をめざして)
- 将来に対する夢や希望を持ち、それが達成できるようキャリア教育の充実を図る。
- 生徒に自信を持たせたり、自分の良さに気づかせたりする活動を意図的に取り入れる。

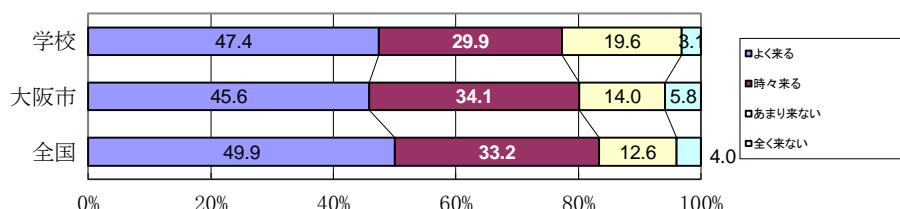
学校・家庭・地域の連携

結果の概要

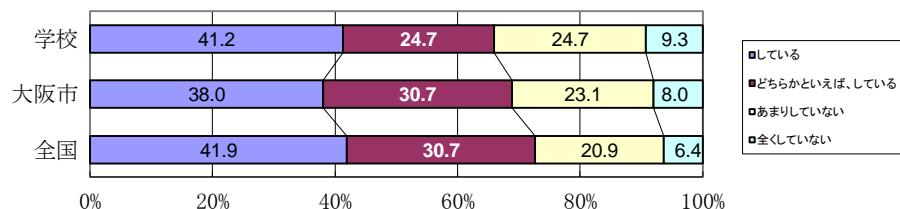
- 「授業参観や学校行事に来ますか」「よく来る」だけでは、大阪市や全国を上回っている。「どちらかといえば、あまり来ない」が大阪市や全国との差を広げている。
- 「学校の出来事について話をしますか」についても大阪市や全国と変わらない結果である。「どちらかといえば、している」が大阪市や全国よりも多い。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に「関心がある」「どちらかといえば、関心がある」を合わせても36%で無関心さが表れている。

質問番号 質問事項

20
家人の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19
家人の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか



30
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



成果と課題

- 家の人は授業参観や運動会などの学校行事に関心があり、時間があれば行事に来てくれている。「あまり来ない」が大阪市や全国との差がある。曜日や時間の設定について考える必要がある。
- 「家人の人と学校での出来事について話をしますか」について、「どちらかといえば、している」の割合が大阪市や全国と差がある。家族の団らんの時間に積極的に話をするよう取り組みたい。
- 地域での各行事や様々な活動に積極的に参加を促し、地域社会への所属感を実感できるような取組を考える。

今後の取組

- 全教育活動を通して、地域との連携を深めて行くような取組を推進する。(防災訓練等)
- 大阪市内にある学習資源の積極的な活用を図り、身近な地域や大阪を知る取組を推進する。(地下鉄ラリー等)
- 生徒一人一人の職業観や勤労観の育成と将来に必要な基盤となる能力や態度を培うために、地域社会と連携し、職業講話や職場体験学習の充実・発展に取り組む。

学校組織の改善

結果の概要

- 全ての教職員は自分の立場から生徒理解を深め、情報交換を通して教職員間で共有化を図り、組織的な対応を推進することが重要だと考えている。
- 教員の多忙化が言わされているが、学校組織体制の見直しや学校行事の精選を行うことで、教職員が生徒理解を行うための時間が確保でき、計画的に自主性や自律性を育む指導が可能であると考えている。
- 生徒にとって、学校生活の中心は授業である。生徒一人一人の学習内容の習熟度を十分理解し、授業の場で活躍の場をつくる。そして、わかる授業を実感させることができることが学力向上につながる。研究授業は教科指導を一層改善・充実させるよう取り組んでいる。

質問番号 質問事項 ◀

98 【学校質問紙】

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

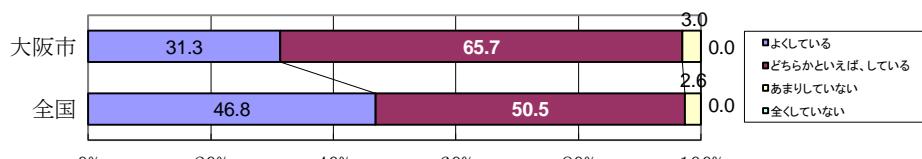
学校 「よくしている」を選択



96 【学校質問紙】

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



89 【学校質問紙】

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校 「年間1回から4回」を選択



成果と課題

- 問題行動等が発生した時には臨時の職員会議を開催したり、月に1度の会議時に、問題行動の指導の経過等や不登校生の状況について、各学年から報告を行い情報の共有化を進めている。
- 今年度、「研究協議をともなう研究授業を年間9回以上、研究授業を1年間に20回以上実施する」を取り組み内容に設定し、取り組みを進めている。

今後の取組

- 生活実態アンケートや食と食生活アンケートの結果を踏まえ、取組の弱い部分の強化を図る。
- キャリア教育をより一層推進する。具体的には目標及び育成したい能力や態度、教育内容や方法などの共通理解を図り、全教職員が互いに連携を密にして、円滑な実施に努める。
- 学校全体で学力傾向や課題について、全教職員間で共有できるように取り組む。
- 教員同士が協力し合って、学習指導と学習評価の計画の作成にあたる。